許

昭和 4 9 年 7 月 2

特許庁長官殿

- 1. 発明の名称
 - リーハロゲノーチアゾロキノサン質の質質
- 2. 発明者

東京都区产品在市场的中 東京都区产品在市场集中 = 1.0 新一個最初资源分 金 縣 東 至 (後14)

3. 特許出顧人

東京都中央区日本編3丁目14番10号 (283) 第二基第株式会社 代表取締役 若 篇 英 章

4. 代理人

東京都中央区日本観3丁目14番10号 ● 1 0 3 第一製業株式会社内 電話(272)0611 内 文 文 部



5. 添付書類の目録

1) 明 編 書 1 選 (2) 委 任 状 1 理

方式 (木)

من

1番目の名称

9-ハロゲノーナアゾロキノリン質の製法。

.....

(式中 3位依領アルキル基。低級アルケニル基。 3位水索原子又は低級アルキル基を示す。)で 表わされるリーヒドロキャテアプロ(5,4-1) キノリン・8-カルボン酸器準体とハロゲン化 報とを反応させるととを特徴とする一般式

(式中 X はヘロゲン原子を示し、 36、 36 故前配に同じ。) で表わるれる 9 - ヘロゲノテアゾロ (5,4 - 2) キノリン・8 - カルボン散酵等件の解液法。

3 表明の計画を製稿。

19 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 50-25595

43公開日 昭 50. (1975)

②特願昭 48-773//

②出願日 昭4 (1973) 2.9

審查請求 未請求

(全2頁)

庁内整理番号 6736 44 7043 44

120日本分類

16 E622 30 B1 1 Int. Cl²

C070513/04/ A61K 31/47 (C070513/04 C070221/00 C070277/00)

本是明は新規な9-ハロゲノーチアゾロキノリン誘導体の観査技化関するものであり、反応
ポアデルが次の乗りである。

(式中 3は低級アルキル基。低級アルケニル基。 3は水実原子又は低級アルキル基を示し。 3 は ヘロゲン原子を示す。)

すなわち。本発明は5-世換-2,3-ジヒドロ-9-ハイドロオキシ-2-オキソーチアソロ(5,4-1)キノリシ-8-カルポン酸酵準体(I)をハロゲン化剤と反応させて5-微換-2。3-ジヒドロ-9-ハロゲノー2-オキソーチアプロ(5,4-1)キノリン-8-カルボン酸酶準体(I)を解決する方法である。

出発収料の仰は、8-メチルチオ・9-ハイドロオキシチアソロ(5,4-エ)キノリン・8カルボン接交はそのエステル酸にジアルキル

特開 9750-25595(2)

確康を反応せしめて、8-アルキル-2-メチルチオ-9-ハイドロオキシチアゾロ(5,4よ)キノリン-8-カルボン最又はそのエステル質のアルキル硫酸塩とし、これを加水分解することにより容易に製造される(特濃昭 4 6-085 8 6 8 金昭)。

(Dを製するには、通常(Dとハロゲン化剤との 混合物を変量乃至150℃に数時間~数十時間 加熱すればよく。ハロゲン化剤の難解によって 反応条件は異なるが、一般に90~110℃に て8~10時間加熱するのがよい。

ヘロゲン化剤としては、オキシ塩化餅、五塩 化餅、三塩化餅、オキシ臭化餅などの餅ハロゲ ン化物又はそれらの提合物などが用いられる。

との様にして得られる化合物(I)は、すべて新 気化合物であり、それ自身、抗原虫、抗真菌、 抗菌作用を示すと共に、優れた抗菌作用を示す 3,6 - ジ煙袋 - 2,5,6,9 - テトラヒドロチアソ ロ(5,6 - 2) キノリン・8 - カルボン酸張又 は3,8 - 2 煙機 - 3,5 - 2 と ドロチアソフ 〔 5.4 - 1 〕キノリン - 8 - カルポン酸質の製 盗中関体として価値ある化合物である。 本施領

2,3 - ジヒドロー3 - メチルー9 - ハイドロオキシチアゾロ(5,4 - ェ)キノリンー8 - カルボン酸エチルエステル39, オキシ塩化調150 = の混合物を3時間加熱温速する。反応被を被圧強縮後。氷水中にあけ、アルカリにて中和し、クロロホルムにて抽出する。抽出被を乾燥後、溶薬を留安し、残渣にエーテルを加えて折出する後費色結晶を補取すれば、酸点188℃の8,3 - ジヒドロー8 - メチルー9 - クロルーチアゾロ(5,4 - ェ)キノリンー8 - カルボン酸エチルエステル39(収率95%)が得られる。

元素分析値 0₁₄H₁₁H₂O₃BO4 計算値 0 58-09, H 54-5, H 8-6-6 実験値 0 51-7-2, H 55-2, H 8-6-6

6. 前配以外の発明者